



# ネイチャーなら

《わたしたちは大和の自然を愛します》

発行2014年6月1日

6月号・第149号

奈良・人と自然の会

会長 藤田 秀 憲

南部鉄瓶



## Contents



田中修さんを偲ぶ.....	①	やさしい病害虫講座②.....	⑪
Monthly Repo.ならやま.....	②	俳句百景.....	⑫
多士済々.....	③	癒しの散歩道&ならやま茶論.....	⑬
里山の今.....	④⑤	青垣春秋.....	⑭
GGプロジェクト報告.....	⑥	Galleryならやま.....	⑮
天平祭報告.....	⑦	ならやまプロジェクト.....	⑮
5月・月例研修会報告.....	⑧	仲間入りしました.....	⑰
通常総会報告.....	⑧	行事案内①.....	⑰
歴史研修会報告.....	⑨	行事案内②&奈良学クイズ.....	⑱
自然教室チームだより.....	⑩	幹事会報告・ペン画に寄せて・編集後記.....	⑲

会報紙はカラーでホームページに掲載しています。 URL <http://www.naranature.com>

# 田中さんを偲ぶ

藤田 秀憲

田中さんは、平成24年4月に入会され、その年の「アースデーinなら」の自然工作の出展（セミ太郎、ブンブンゴマ）や夏のイベント「ならやまの自然観察と自然工作」で、子供たちがバウムクーヘンを焼いたり、のこぎりで竹を切るのを温かく見守っておられる姿が、今も脳裏に焼き付いています。

「彩の森」の整備や「佐保自然の森」の草刈り、第五地区の蔓や杉の枝葉のベースキャンプへの搬送焼却処理においても、先輩に負けない働きをしていただきました。「新蕎麦まつり」や「芋煮会」でも、秋の収穫を



【写真中央 田中さん】

ともに楽しんで頂きました。25年度新入会員歓迎会では、先輩として仲間たちと一緒に世話していただきました。昨年の天平祭の自然工作の出展（竹の鯉のぼり、ブンブンゴマ等）を通じ、物静かな人柄と確固たる信念を内に秘め、誰からも信頼されている、田中さんの活躍ぶりを見て、平成25年度の総会で、全員一致で幹事に加わっていただくことになりました。同時に会報誌「ネイチャーなら」の編集委員のメンバーとして、会報誌の内容充実にも貢献していただきました。

私たちは、今後の活動の推進役になっていただけるものと、大いに期待をしていました。ところが、昨年秋以降から療養のため活動から離れられ心配していましたが、そのうち元気になってお顔を見せていただけるものと思いながら、ついつい日が経過して、この2月末に自宅へ電話したところ、「病院へは検査のため日時を決め通院しているが、普段はぶらぶら散策したりしています。」と元気な声で話されていました。「無理をしないでゆっくり療養して時々『ならやま』へ気分転換に遊びに来て下さい。」と申し上げたのですが、この会話が最後となってしまいました。4月になって、ご子息から突然の訃報のお知らせがあり、驚きとともに直ぐには信じる事ができませんでした。

2年という短い期間ではありましたが、誠実なお人柄と責任感旺盛で献身的な活動振りは忘れ

難く、その早すぎる人生に痛切な悲しみを感じています。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

誠実で温かみのある人、田中修さん。この世でお会いすることができなくなり寂しい限りです。

坂東 久平

同期の桜・田中修さんと言っても、私が2ヶ月早く2月に入会した先輩です。それでも活躍ぶりは素晴らしく、ベースキャンプの活動は勿論、イベント等で存在感がありました。編集チームや初期のパトロール班で一緒に活動させて頂きました。

私事ですが、田中さんは薬師寺のお仕事もされており、大晦日の鐘撞きに孫を連れて行った時にテントの中に入れて下さり、焼き餅をご馳走して頂いたり、東塔解体の特別拝観で塔頂の解体現場見学の機会を頂いたりお世話になりました。

2月26日に花会式招待状のお礼の返信（放射線治療を始めたところ）を頂いたのが最後のメールでした。

良き友を失い悲しみに耐えませんが、ご冥福をお祈り申し上げます。

羽尻 嵩

「6月13日 田中さんの釣竿で2匹、私の釣竿で1匹、ザリガニを釣る。」 「7月9日 田中さんにモンドリを増やしてもらったので、今日はザリガニを20匹捕獲できた。」

これは2年前のタナゴ池の作業日誌の中の一文です。懇意にさせていただき、彼とは活動日以外の日にも「ならやま」へ行き、一緒に池の作業をしたこともありま



【写真右端 田中さん】

した。また、「ならやま」に奥さんやお孫さんと来られていて、景観を楽しんでおられたこともあり。 「田中さん、小島さんと私で湿地の草刈りをする。」 これは昨年の10月3日の日誌の一文です。この日が彼と会った最後の日となりました。

誠実で温かみのある人、田中修さん。この世でお会いすることができなくなり寂しい限りです。

**Monthly Rep. ならやま**

◆4月24日(木) 晴れ 65名+4名  
BC周辺の自転車道、ならやま大通りの一斉清掃を実施したが、今回はならやま会館とコンビニにも声をかけて近隣との共同作業となった。

里山Gは、カシナガ被害木の切り株の燻蒸処理と焼却を継続。また、先週に引き続き県森林技術センターからカシナガ被害木への茸栽培の指導を受けた。

エコファームGは、ジャガイモの土寄せ・施肥。いたずらカラスからエンドウを守るため、畑全体に網かけ。第5地区で8月取りのサツマイモを植え込み。乞う期待!

景観Gは、勢力を伸ばそうとする雑草に対してBC、彩の森で先制攻撃の草刈り。池のアオミドロ掬い。ジャーマンアイリスの除草。



◆5月1日(木) 晴れ 70名  
大勢の会員が参加していただき、5月3日のイベントに向けてハイキングコース点検、山遊びのロープ張りなど準備を進める。

5月号の会報を配布。池の活動で頑張っていた田中修さんのご逝去を報告。

里山Gは、山遊びの準備と玉切りしたカシナガ被害丸太の燻蒸処理。エコファームGは、野菜は畑の整地、トマトの植えつけ。

景観Gは、彩の森、ならやま会館前、BCの除草、池の水生生物調査、花壇の柵作り。第5地区でヒマワリの播種、タチバナの定植。

◆5月3日(土) 晴れ 42名+66名  
「わくわく!ドキドキ!お山を歩こう!」のイベント、子ども達の楽しげな声がいっぱい響き、非常に好評であった。

◆5月8日(木) 晴れ 63名+1名  
毛虫、シャクトリムシの一斉蜂起でならやま一帯のクヌギ、ウメ、クリ、ツツジでは大きな被害が発生。

里山Gは、樹幹から脱出が予想されるコナラ樹17本に対し、地上2mの高さまでムシムシホイホイが巻きつけ、脱獄者(虫)防止を図った。

エコファームGは、ナス・ピーマン・サツマイモの植えつけ。景観Gは、彩の森、BC、ソバ畑の除草。第5地区ではサツキの定植、ソバ畑へのチップまき、ウメの毛虫の捕殺。ムラサキハナナの整理と日陰花壇の柵作り。

◆5月15日(木) 曇りのち雨 53名+7名  
シニア自然大学校から本年度初の実習生を受け入れ。午後は雨となり早々に解散。

里山Gは、薪作りと3月に菌打ちをおこなったしいたけほだ木を斜めに立てかけ作業。

エコファームGは、カボチャが新調の帽子を被せてもらって植えつけ。ソバ栽培予定畑にチップ投入。景観Gは、彩の森の除草とウメの毛虫退治。各種花苗の植えつけ。



(木村 裕)



# 万年青年 境 寛 さん

顧問 阿部和生



「十一面観音立像」ご記憶の方も多いと思います、昨年8月の例会 滋賀県「山門水源の森と渡岸寺拝観」の際の境さんの力作です。穏やかで優美なお姿が、活写

されています。「根」を詰めた作業は、私には想像できない世界・精励の時間で圧倒されます。会報誌の表紙に毎月寄稿下さり「奈良・人と自然の会」看板の一つとなっています。あの緻密な「ペン画」のエネルギーは、一体どこから生まれているのだろう？と境さんを訪ねました。

お話しを伺うと、万年青年で常に好奇心の塊、新しい事に挑戦のポリシーは、若い時も今も少しも変わりません。工学部を卒業され聖職につかれ本業の傍ら、異色の分野？と思う様々な活動をなさって来られました。その一つに絵も描いておられたそうです。ペン画はまだ10年にもならない新しい分野とすまし顔です。

学生時代に山岳部で鍛え「カメラは、その前からさわっていた」と言われます。小さい時(小学生)から写真機をいじり、好きだったんだよ、今もよく撮



立山大汝山 山頂 3015m

りますと…、その一部を拝見しました。天体オーロラ写真コンテストで入選、その後ある雑誌の表紙を飾ったカナダ・イエローナイフでのオーロラの数枚に目が釘付けになった



ものです。天空のオーロラーと共にその奥の素晴らしい星座までくっきりと撮影され読み取れます。是非ホームページでカラー写真を見て頂きたいと借用してきました。

「天空の美しか

ったのは、チベット未踏峰の山を支援隊副隊長としてサポートした。標高5000m付近での夜空ですよ！あの頃は特別に忙しかったなー」と述懐されます。

「ヒマヤラノアオイケシ」と言う高山植物は、その時の撮影の貴重なものです。

だいぶ少なくしたと言われるいろんな役職は、それでも名刺に入りきらないほどです。幹事に就任頂き広い人脈を生かした情報と的確なアドバイスの数々を頂いて大きな影のご支援を頂きました。身



辺は「忙しくなさってる」とかなり遠慮して、この会での活動要請を控えてきたのですがその配慮が悔やまれる事です。「今は少しゆとりができてきた」そうですから、これまで蓄積しておられる、多くの知恵や体験をこれからも発散 発信していただきたい、と強く思っています。

「会」のホームページを立ち上げて、数年前までその維持・更新に尽力くださいました。この事が現在のその充実につながっています。好漢・境さんは、お酒を飲まれませんが、話していると話題が尽きません。またの機会にもそのご活躍を聞かせてほしいものと、別れてきました。

### ならやま花だより

櫻木 晴代

## 里山の



## 今

風薫る5月に、花だより初心者  
私は先輩諸氏の案内で里山を歩きました。  
ゆっくり草花を観察できる機会を与えてい  
ただき感謝です。しかし、花の同定は難しく、  
図鑑やルーペの登場です。それでも困難を極め、  
「汝の名は？」と花に聴きたい心境のこともし  
ばしばでした。

<p>花器は4裂、 4本、雄しべは花筒の 基部、雌しべは花筒の</p>	<p>大葉子（車前 草ともいう） 種子の表面 は粘液質に 富み、水気 にあうとすぐ 粘って人や 動物に付着 し伝播する。</p> <p>薬効：下痢、咳止め、止血、強壯、利尿</p>
---	--

(草花)ハルジオン、オニノゲシ、オニタビラコ、  
セイヨウタンポポ、カンサイタンポポ、カラス  
ノエンドウ、オオイヌノフグリ、キュウリグサ、  
レンゲソウ、ウマノアシガタ、ヘビイチゴ、オ  
ヘビイチゴ、ムラサキサギゴケ、カキドオシ、  
オオバコ、イヌガラシ、トウバナ、ノニガナ、  
ニワゼキショウ、トキワハゼ、ノミノフスマ、  
ヤブジラミ、ノアザミ、ジシバリ、ムラサキカ  
タバミ、サクラマンテマ、チチコグサモドキ、  
ヒメコバンソウ、スズメノカタビラ、フモトス  
ミレ、ハコベ、ハハコグサ、ユウゲショウ、ア  
メリカフウロ、タチイヌノフグリ、イ。  
(花壇)キショウブ、アヤメ、ニゲラ、シラン、  
イチハツ、スズラン、カワラナデシコ、ムラサ  
キツユクサ、ミヤコワスレ、トケイソウ  
(木の花)ウツギ、ガマズミ、ツクバネウツギ、  
タカノツメ、カマツカ、ハリエンジュ  
佐保の森：(草花)ヘラオオバコ、コメツブツメ  
クサ、ニワゼキショウ、マツバウンラン、ヒル  
ザキツキミソウ、  
(木の花)ヤマボウシ、エゴノキ、マユミ

### ペタキン日記 25

羽尻 嵩

4月24日(木) 東池ではアオミ  
ドロが猛烈に繁茂して、池の底では  
黒味を帯びた塊りになっている。

他の池も同じだ。 タナゴ池では今年初めてタ  
ナゴが6匹網にかかった。いずれもオスで、体  
色が水色に赤色の混じった婚姻色になっていた。



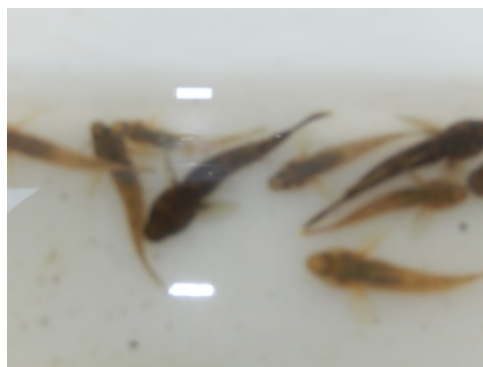
5月1日(木)  
側溝の溝は3  
月からこの時  
期にかけて、  
枯れ木・落葉  
が大量に流れ  
てきてベース

キャンプや池に流れ込む水路や排水路を塞いで  
しまうので、この日もその除去に追われた。

5月8日(木) アオミドロは一週間前と同じ  
ように繁茂している。近畿大学からのタナゴ池  
の今年度の担当になった入江君が来る。池の管  
理方針などの話をして、昼食時に皆さんに紹介  
する。

5月15日(木) 近大班による調査で、タガ  
イ11個体の中に約60個のペタキンの卵が産み  
付けられていることが分かった。8月までに稚  
魚が何匹生まれるか楽しみだ。

5月22日(木) 近大の池で育種されてきた  
シマヒレヨシノボリ15匹をタナゴ池に放流し  
た。この池にいたヨシノボリは、昨年12月近  
大に持って行った際にすべて死んでしまったが、  
これで新たにタガイの増殖に向けて再スタート  
がきれた。



**虫にまつわる諺・言葉**

菊川年明



6月ともなると里山にはたくさんの昆虫が出てくるので虫選びも難儀である。当欄「里山の今」という枠からは外れるが、今回は余談で一席、ということにさせていただく。

**\* 虻蜂 (あぶはち) 取らず**

二つのものを両方得ようとして、どちらも得られなくなる、という誰でも知っている諺である。クモが網を張って待っているとアブが引っかかったので、それを搦めに行くと、別のところにハチが引っかかった。クモはアブを残してハチの方へ行くとアブが逃げそうになる。アブの方へ戻るとハチが逃げそうになる。それを繰り返しているうちに両方に逃げられてしまうというお話が起源とのこと。

**\* 蜻蛉 (とんぼ) 返り**

トンボ類、ことにトンボの中でもヤンマ類が一定のところを行きつ戻りつしているのをよく目にする。一瞬に反転する。まことに鮮やかである。このことから生まれた言葉で「蜻蛉返りの出張」などとして使っている。

**\* 螻蛄 (とうろう) の斧**

螻蛄とはカマキリのこと、この虫の前脚は鎌のような形になっているので、これを斧に見立てている。身の程をわきまえず、前脚(斧)を振りかざして、敵うことのない相手に挑むことの喩えである。カマキリが大きな車に無謀に立ち向かう古い中国の故事に基づくそうである。

(オオカマキリ 成虫は8月~11月)



**パトロール班 Repo**

有元康人

今回のパトロールは5月のイベント(ならやまウオーキング)の事前確認を兼ねての活動になります。参加する子供たちの目線で楽しい企画になるよう6人で行ってきました。

メニューの一つは、鳥観の丘から大極殿を子供たちに見つけてもらうことですが、実際に大極殿が確認できるか? 足場が必要になるか? を現地で確認したが、大きな竹が前方にあり重なって見えるが目視には問題はないと思われた。また足場はビールケース程度の高さがあれば子供の身長でも見つけることが確認できました。

二つ目はピョン作りと実際に飛ばしてみることでした。シダの葉を折り3本足の軸を作りそれをバネにして飛ばすのですが、私達も飛ばしてみても子供たちもきっと喜んでくれると思いました。

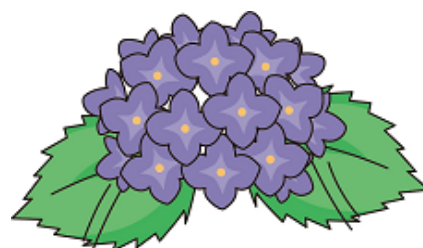
三つ目は子供たちに丸太の径と長さを計り報告してもらう取り組みですが、現地にある丸太を確認し適当な丸太を選別の上サンプル2本を作りました。

四つ目は松ぼっくりの玉入れと松ぼっくりで松の種類を当てるイベントです。実際に適当な木にバスケットを括りつけ入れてみました。また私達も数種類の松ぼっくりで松の種を勉強しました。

ルート上では危険箇所や倒木等の問題はありませんでした。

ならやまウオーキングが楽しいイベントになることと事故がないことを祈念してレポートを終わります。

追伸: 5月3日に行われた親子ハイキングは大成功だったそうです。



## GG イベント「わくわく！ドキドキ！お山を歩こう！」

5月3日(土) GG イベント第2弾、「わくわく！ドキドキ！お山を歩こう！」をならやまベースキャンプとならやま自然林を活用して開催しました。

当初参加希望者が少なくてやきもきしましたが、近隣への働きかけもあって後半は増え、当日には子供36名、保護者30名、計66名となり、ほっとしました。

行事としては、午前中は親子ハイク、午後は里山での冒険遊び、丸太切り、コイノボリ工作など盛りだくさんでしたが、42名の会員が参加していただき無事に終わることができました。

親子ハイクはまったくの初めて取り組むイベントでしたが、今回取り上げたコースをよく知っているパトロール班が中心となっていていろいろ面白いアイデアを出し、工夫をしていただいたので、大成功でした。参加した子ども達や保護者の方は、喜びいっぱいゴールに入ってきて、感謝されました。



午後は、緑陰広場でコイノボリ工作と丸太切り、遊びの広場で木登り、丸太渡りなどの冒険遊びを同時に実施しました。全体を2グループに分け、40分後に山の上下のイベントを交代する方式を取り、混雑回避を図りました。遊びの広場への移動はオプションとして転ぶと擦りむく恐れもある道なき急な斜面を取り入れましたが、会員のサポートによりなんの怪我もなく小さな子供までロープにすがって大喜びで登っていました。



[アンケート結果の一例]

- 皆様の行き届いた準備とサポートに感動しました。素晴らしい経験をさせていただきました。ありがとうございます。
- とても楽しかったです。本当にいたれりつくせりで、24号線を車で走っていてよく知った山で、こんなに楽しいなんて、とても身近に自然を感じることが出来ました。今日までの準備も大変だったと思います。本当にありがとうございました。



(木村 裕)

## 平城京天平祭

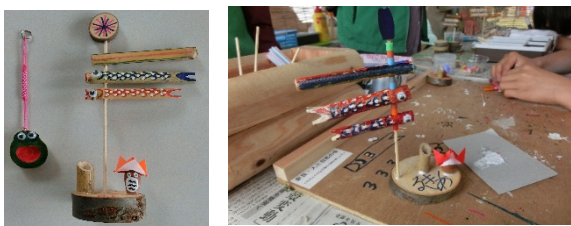
### 自作の鯉のぼり・カエルのストラップに 子供達も大喜び

5月3日より5日までの3日間、今や連休期間中の恒例行事とも成っている「平城京天平祭」に今年も実行委員会からの強い要請を受け、スタッフ延べ人数30名の陣容にて参加致しました。

昨年に引き続き、佐伯門周辺に特設された物づくり子供広場に、お客さん8人が同時に工作出来る小間を構え、子供達に自然工作に参加してもらい、物づくりの楽しさ、素晴らしさを親子で体験して頂きました。

昨年の天平祭では初参加にも拘わらず、5月のこの時期に相応しい鯉のぼり作りが大当たり、沢山の来客を得て実行委員会からも、物づくり子供広場催しの一番人気との高い評価を受けました。

今年は更に子供の無事帰宅を祈る「カエルのス



トラップ」もお目見え、昨年以上の好評を博し、テントの前には行列が出来る有様でした。

予想以上の客の入り、当初多少の混乱を生じましたが、途中からは整理番号を発行、お客さんの誘導も極めてスムーズに行き、友達同士や家族連れでの席確保も提供出来るようになり、お客さんからも大変喜ばれました。

振り返れば、参加が決まってからというもの、ならやまベースキャンプには毎週木曜の活動日、寸暇を惜しんで準備作業に勤しむスタッフの姿がありました。

リピーターのお客さんにも喜んでもらおうと折



り紙の兜や花立ても新たに準備、親子の鯉や吹流しの飾り物の位置固定にもストローやビーズを取り

付ける工夫を施し、部品点数は12点にも上り、これまで以上のバージョンアップが図られました。

加工にはドリル、グラインダーも使用したとは言え、気の遠くなる様な地道な作業が続きました。

しかし子供達の喜ぶ姿が目には浮かぶのか、誰ひとり愚痴を言う人などいません。反対に楽しそうに作業されていた姿がすごく印象に残っています。

初日5月3日は、ならやままでのGreen Giftプロジェクトの第2回イベントと重なり、当日のスタッフ確保に苦心しましたが、最終的には精鋭6名



の参加協力者を得て、売上総数82セットと言う驚異的な数字で初日の難関を突破致しました。

2日目以降もその勢いは持続され、2日目は93セット、そして最終日は雨天の中82セットの売り上げを達成致しました。

その間には子供たちの発想もどんどん広がり、座り込んで席を離れない子も続出、一つの作品に30分前後の時間を掛ける子も次々現れました。

子供達の目はどの子も真剣そのもの、スタッフもその熱意に打たれ出来るだけ口出しせず、子供達に寄り添い根気よく仕上がりを待つと言う気配りを見せました。

鯉のぼりでは2歳の子が、カエルのストラップでは、なんと1歳児までが自作の作品を完成させ、子供達の頑張りに親御さんのみならず私達も感動させられました。



「今年も鯉のぼり作りを楽しみに来ました」と声を掛けて下さるリピーター、「おじさんにはこの前ならやまで会ったよ」と声を掛けてくれる男の子、「孫の土産に」と頑張るおばあちゃん、1セットを完成させてから更に2セット分の材料を購入し大事そうに持ち帰る人、どの人も満足そうな笑顔でいっぱい、「今年もイベントに参加して本当に良かったな」と思える瞬間でした。

(辻本信一)



## 第13回通常総会開かれる！

平成26年5月18日(土) 奈良市中部公民館で第13回通常総会が開かれた。

八木幹事の開会の辞で始まり、出席者44名、委任状提出者79名 計123名の出席者で、会員総数149名の過半数を満たしているため、本総会は成立した旨の宣言があった。

ついで藤田会長より平成25年度について、ならやま景観整備事業、例会、自然教室の各活動とも参加者が前年度を上回り充実した活動ができたこと、また、主要な出来事を振り返って、

- \* グリーングフトプロジェクトの協定締結
- \* 林野庁からの交付金が本決まりになったこと
- \* 奈良県との間で県有地の使用について再協定と収穫物の売上げの会運営費に充当承認
- \* ナラ枯れ対策の進行
- \* 第5地区の第2期整備完了と活用開始
- \* ならやま活動での安全管理の徹底について説明があった。



そして今後とも「明るく、元気に、楽しく、そして無理をせず」を基本に活動を進めていきたいとの挨拶があった。

議長選出後、議案の審議に入り、各議案とも審議の結果、提案通り承認された。

総会閉会后、臨時幹事会が開かれ新会長を選任し、新幹事の分担が協議された。その結果について総会参加者に対し以下のとおり報告がされた。

会長：藤田秀憲（再任）

副会長：木村裕（再任） 森英雄（再任）

八木順一（新任）

事務局長：塩本勝也（再任）

会計担当：田矢恵造（新任）

顧問：川井秀夫（再委嘱） 阿部和生（再委嘱）

その後、新幹事6名の挨拶並びに退任幹事5名の挨拶があり、本日の総会は終了した。

（倉田 晃）

## 【5月・月例研修会】

## 5・14「生駒山・自然観察会」

### 生駒の知られざる秘境を探索！

近鉄生駒駅に22名の皆さんが集合されました。案内役は、生駒山系を我が庭のごとくに熟知されている、飛田太一郎さんです。

今回はいつもの観察会とは少し違い水辺（池）の植生観察も加えた、ビオトープの在り方、考えかたに付いてのテーマを持った観察会になりました。



日頃余り人が足を踏み入れない場所に残る、沼池、湿地池や、溜池など、池の違いにより植生が変わる事を知りました。或る池では「ジュンサイ」が繁茂しており、飛田さんが自ら池に入り「ジュンサイ」を採取して見せて下さいました。生駒山系の池にも繁茂している事を知り皆さん驚きです。

飛田さんから、池の周りには「マムシ」がよく居るので注意が必要と聞きましたが、正に池のそばで、マムシに遭遇し、飛田さんは気付かず上を飛び越され、二人目の人が発見、危ない所でした。

6か所の池を巡りましたが、それぞれに違いがあり、水性植物、水性昆虫、水性動物の大切な生息場所となっています。「自然の中に残る池等は、出来ればコンクリート等の人工物で整備するのではなく、ビオトープの在り方も自然の姿を大切に残す事を考えながら管理するのが望ましい。」が、飛田さんの最後にまとめのお話でした。

参加の皆さんも、新緑の雑木林の中は涼しく汗を掻く程の事も無く、気持ち良く歩く事が出来ました。普段の観察会では味わえない緊張感、発見や感動を感じられた事と思います。楽しく記憶に残る観察会になりました。

（池田 信明）

## 歴文5月研修会レポート 「五條市の史跡散歩」

5月19日(月)快晴、定刻前に全員が揃って、8時20分出発。今回は参加人数が増えて中型の観光バスをチャーターしたので、乗り心地も満点、今度も歴文日和だと軽口をたたきながら、新緑眩しい五條市を目指す。

五條市は、古代は大和の王都と紀水門を結ぶ交通と物流の拠点として、近世には高野街道、紀州街道、伊勢街道など5街道が交わる要衝として大いに栄えたところである。史跡や文化財が多く残っていて、歴史好きにはこたえられない所である。

車中では、川井さんによる天誅組の解説がある。事件の背景と幕末の歴史や人間模様など縦横無尽に語る。維新は天誅組の挙兵から始まるとして、もっと評価すべきだとの話に一同耳を傾ける。

10時前に五條市到着。

第一番目の目的地、天誅組本陣跡の桜井寺へ。ここから地下道を通って五條新町出る。日本最古の民家栗山邸を初め143棟の江戸時代の商家が保存されている。重要伝統的建造物群の並ぶ街には、江戸時代の雰囲気漂う。西谷さんの案内で解説書を片手に約1時間、自由に散策する。

名物の焼き餅や柿の葉寿司も、食文化の一つとして池田さんに手配して貰ってお昼に頂くことに。ゴールは天誅組縁の五條陣屋長屋門のある民俗資料館の説明と見学。

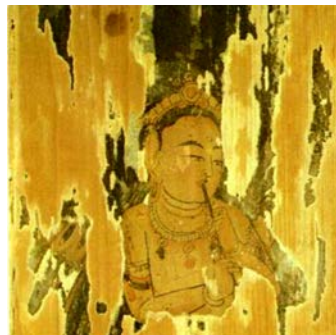


五條陣屋長屋門前にて一同

バスは第2番目の目的地の栄山寺へ。ここで、案内人の解説を聞く。この寺は鎌足の孫の武智麻呂の創建。藤原南家の氏寺として、広大な寺

領をもって栄え、南北朝時代には南朝の天皇の行在所にもなった。寺域に残る八角円堂(天平)、と梵鐘はいずれも国宝。

幸運にも本堂と八角円堂が開帳され秘仏を拝観。また、資料室には貴重な仏画の写真や梵鐘銘盤の拓本が展示されていて、好奇心を掻き立ててくれる。岩本先生から専門的な解説を頂いた後、昼食休憩。



八角円堂の柱絵

第3番目の目的地は、吉野川を渡って南下し、御霊町にある御霊神社本宮へ。奈良時代最後の天皇、光仁帝の皇后の井上内親王は、藤原一族の政争の犠牲となり、皇后を廃され皇族の身分も剥ぎ取られてこの地で無念の生涯を終えた。

ここはその御魂を祀った社である。平安時代になって御霊信仰が生まれる。政争の犠牲者の怨霊が、社会に様々な災いをもたらすと考えて、その亡霊を復位させたり、諡号や官位を贈って霊を鎮め、祀ることによって、怨霊は鎮護の神となるという考えである。ここ御霊神社本宮はその草分け的存在である。

さらに興味深いのは五條市内には御霊神社が20以上もあることだ。古くから土地の勢力図が変わるたびに「宮分け」がおこなわれた結果である。土地の人にとっては、御霊さんは氏神的な存在となって敬愛されていることが窺われて興味深い。

最後は、悲劇の主人公の井上内親王陵と他戸親王墓にお参りする。宮内庁表示板に「光仁天皇皇后井上内親王宇智陵」と確かに復位がなされ、御陵となっている。研修会はこれにて終了し帰途に就く。16時近鉄奈良駅着、解散。

今回の五條市の歴史散歩は、歴史心をさらにかき立てた。天誅組への人々の思い、歴史を秘める栄山寺、本堂の秘仏の輝き、今も生きる御霊さんと村人の交流。名物の柿の葉寿司や焼き餅等々、まことに盛り沢山の一日であった。皆様お疲れ様。世話人の皆様ご苦労様でした。

「山寺に秘仏かがやく若葉かな」

(古川 祐司)

自然教室チームだより

## 平城宮跡の楽しい自然観察

4月から5月にかけて平城宮跡の中に写真の植物が賑やかに咲いていますがご存知でしょうか。



イネ科の植物でハルガヤといいます。不思議なことに、採集してしばらく置いておくと、クマリンのとても良い香りがします。部屋に置くとアロマセラピーの役割をはたしてくれます。

ちょっと意外な感じですが、平城宮跡は大変自然豊かなフィールドで、草本を中心にいろいろな植物に出会うことができますが、中でもイネ科の植物の宝庫といえます。これは湿地の多い広大な野原があり、あまり人手をかけずに置かれてきたこと、奈良公園と違って鹿がいないことなどのせいでしょう。

今の時期ですとイチゴツナギ、ハルガヤ、ネズミムギ、イヌムギ、ナギナタガヤ、カモジグサ、ヌカススキ、チガヤ、カラスムギなどが元気いっぱいに次から次へと交替していきます。

秋へ向けてエノコログサ、チカラシバ、カゼクサ、メヒシバ、トダシバなどたくさん登場し、年間を通して少なくとも50種類以上が見られます。

もちろんイネ科だけではありません。いろいろなかわいい花もいっぱいです。今の時期ではタンポポ、各種のスミレ、レンゲソウ、オオイヌノフグリ、ミヤコグサ、ブタナ、ワルナスビなどがきれいな群落をつくり感嘆させてくれます。

自然公園や里山の自然とは違いますが、管理の少ないおらかな自然を楽しむにはとても良い場

所だと思えます。

交通も便利ですし、散歩がてら定期的に観察に行かれてはいかがでしょうか。(倉田 晃)

## 7月の自然観察会 けいはんな記念公園の自然観察 と 国立国会図書館の見学

7月の自然観察会を下記のとおり実施します。自然教室チーム以外の方も奮ってご参加ください。

1. 日時：7月2日(水) 10時～15時
2. 場所：相楽郡精華町  
けいはんな記念公園内の水景園  
(午後は国会図書館の見学を予定しています。)
3. アクセス、集合場所、時間等についての詳細は7月号で連絡
4. 担当：平岡、吉村

## (オフショウ行事) 平城宮跡のイネ科植物観察会 6月13日

自然教室チームでは年6回の自然観察会に加えて、メンバーが好きな時に希望者を募って行うオプション自然観察会を随時行うことにしています。思い立った時の実施ですので、会報には載せませんが、メールで案内することになっています。

今年は平城宮跡や明日香などにできるだけ行きたいと考えていますが、もしメールでの連絡を希望される方は下記の倉田のアドレスまでご連絡ください。

早速ですが「平城宮跡のイネ科植物観察会」を次のとおり実施します。希望者はお越してください。

1. 日時：6月13日(金) 10時～12時
2. 集合場所：奈良文化財研究所仮設庁舎前
3. 持参するもの：図鑑、ルーペ
4. 雨天の取り扱い：会の取り決めによる。
5. 今回の呼びかけ人：倉田 晃

(akira-kurata@msj.biglobe.ne.jp)

## やさしい病害虫講座 2 農薬は安全か？

木村 裕

農薬と言えば恐ろしい物、毒の塊のように信じで疑わず、農薬を使わない有機農業や無農薬栽培が理想的であると思っておられる方が多いようですが。皆さん方はいかがですか？ 無農薬野菜、万歳！ ですか？

農薬とは、野菜や果樹など農作物を栽培する上で、その生育の足を引っ張る生き物の頭を叩いたり、取り除いたりするものと思ってください。

言い換えれば、農作物の葉や果実などに悪さをする害虫や病原菌を殺したり、発生を抑えたりする薬剤ですが、最近ではテントウムシや寄生蜂などもこの農薬の範ちゅうに含まれます。

皆さんが最も懸念するのはその毒性かと思えます。虫を殺すのだから人間にも何らかの悪影響があるはずと信じられています。

確かに農薬には毒性があります。この毒性の強弱によって、毒物、劇物、普通物と3つに分けられています。毒の強さはこの区分が一つ変わるとに一桁異なります。仮に毒物が100の強さの毒性とすると、劇物は10の強さ、普通物は1の強さです。最も毒性の低い普通物と言ってもピンからキリまであり、劇物に近いものから限りなくゼロに近いものまであります。普段皆さんが食べている砂糖や塩でも毒性ゼロではないことを認識してください。

最も毒性が高いのは毒物で現在流通している農薬では日本にはありません。現在は大半の農薬が普通物で、一部が劇物です。スーパーや園芸店に置いてある農薬は全て普通物で劇物はありません。しかし、普通物＝無毒 ではありません。普通物であっても毒性はあることを忘れないようにしてください。

無農薬栽培を進めておられる方の中には、タバコの吸殻を集めてその汁を散布すれば安全と思っておられる方もおられます。これはとんでもない間違いで恐ろしいことです。タバコの吸殻にはニコチンが含まれており、その毒が虫を殺します。

それゆえ防除効果はあります。しかし、安全性の点ではバツです。この毒性は毒物に匹敵するほど高いものです。

また、樹木を蒸留して作られた木酢液を散布し、無農薬栽培だと威張っておられる方も見受けられますが、本当に安全でしょうか？ 木酢液の中には樹木の成分がいろいろ溶け込んでいます。この成分は本当に安全でしょうか？ この成分は木の種類、木の年齢、採取時期などによって変わってくると思いますが、残念ながらきちんと成分分析がなされ、安全だというお墨付きはまだありません。また、病気や害虫に対する抑制効果の試験データも残念ながらありません。それゆえ木酢液は安全性、防除効果がきちんと確認されていないので農薬ではありません。本人が自家菜園で納得して使っておられ限りでは問題はありますが、無農薬栽培農作物として市場に出荷されるのには抵抗があります。

この毒性の基準、判定は年々厳しくなっており、昔は使えたが現在は使えない農薬がたくさんあります。その典型がDDT、BHCでしょう。年配の方はご存知のことと思いますが、昔はノミ、シラミ退治に人体にも散布したことを記憶されていることでしょう。もちろん農作物にも広く使われました。しかし、研究が進みその毒性が問題となり、製造が禁止され今では何処にもありません。

どれが最も安全？ 安価？



石楠花の綻び初めて尼の寺

古川祐司

四月歴史クラブ例会。中将姫隠棲の青蓮寺。緩やかな石段にシヤクナゲの花が初夏の到来を告げる。堂舎は静まり、嫋々と鐘の響き、女人の隠れ寺。安らぎのひとつとき。

隠れ棲む弥陀のお庭に九輪草

古川祐司

九輪は寺院の象徴として飾る相輪のこと。淡紅色の九輪草が咲く。弥陀に捧げる供花だろうか。洗心の思い。

天平祭古代衣装に人の埋む

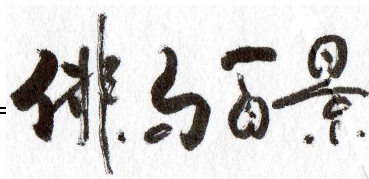
八木順一

当会からも出店参加。年毎に盛況。彩りの装束に大極殿には人の群れ。作者も手を休めて、万葉びとになった積もり。

こでまりの白き光やかフエテラス

八木順一

作者はバイクを駆って各所へお出掛けになる。旬の花に目を奪われ、ティータイム。感性の一句。



監修 川井秀夫

春草の漫ろ漫ろに畦のみち

鈴木末一

草々の小花が美しい。つい足元がお留守になる。目を開くと里山にも珠玉の姿がある。おとつとお御足にご注意。

巣づくりの鶉に程よき梢かな

鈴木末一

鳥巢の季節。外敵防御に鳥たちも大奮闘。見晴らしの良い恰好の場所が見つかった。見上げる作者も納得。

植苗や茄子の嫩葉の戦ぎかな

川井秀夫

今年も茄子の季節がやって来た。実生からの初挑戦。未知の世界に力が入る。茄子くん期待に込めて呉れるかな。

全身を耳にして聴く春の蟬

川井秀夫

先日、菊川さんが春蟬の声を聴かれたとの情報。私は経験が無いがジーワ、ジーワと松林で鳴くそう。研ぎ澄まされた菊川さんの姿が浮かぶ。私の想像句。

癒しの散歩道

赤い花束をそっと手にした少年

谷川 萬太郎

- (1) あどけないその横顔に そっと母への思いが見える  
 幼げなその瞳の奥に そっと母への優しさを感じてる  
 握りしめたその花束に そっと母への愛を込めながら  
 ほら母の歌が聞こえる 悲しみのない明るい向う岸に  
 その穏やかな笑顔が浮かぶ 春風に揺らめく眩しさの中に  
 母への温もり感じながら あゝ汚れない心の故郷に
- (2) 確かな幸せを運んだ花は あゝ喜び溢れる愛に抱かれ  
 愛しき母への素直な気持ち いつかきつと解る時が来る  
 今はただ何も知らぬ儘に いつかあなたも大人になるから  
 大きく膨らむ夢消さぬよう 互いに見詰め合う心育てよう  
 どんな時も君は母の心の灯 この熱き絆我が胸に刻まん  
 微風にゆれる名もない花よ 諦めないでいつかは君の為に  
 (母の日に寄せて)

ならやま茶論

「真すぐな鯉」



竹本雅昭

胴体：な～んてこった、ふにゃふにゃの鱗を書かれてもうがっかりだぜ。俺はビシッとした笹筒なのに。やゝ目玉君よ、そりゃないやろ随分垂目だぜ。もっと格好いい鯉になるよう横に付けてくれよ。

目玉：そんなこと言ってもこの幼い子では無理だよ。おまけに今日は雨で寒いしよ。

胴体：そこを何とかあんたの念力でまともな位置に付けてくれよ。

目玉：そんな力は私にはないね。何でそんなにこだわるんだ。

胴体：だってよ、いつも見本の鯉幟を見てはよし俺もと思ってたんだ、張り切って当然だろう。

目玉：気持ちは分からないでもないけど、あんたのお母さんやおばあさんはどうだった。

胴体：んッ！そう言われりゃ何も言えなくなるよ。多くの笹は里山で消えていく運命なんだから。

目玉：だろう、そんな中で君は子供と仲良しになれるし、机か下駄箱に飾られて家族の人々からにっこりしてもらえる嬉しい置物だぜ。

胴体：掌におさまる鯉幟だけど、吹流しさんと子供の日を祝って泳ぎますわ。

(石舞台のアーステー)



# 隠れ古社寺 ひとり旅 ⑪

歴史文化クラブ  
川井秀夫

## 山邊御懸座神社・山邊御懸坐神社

余花の季節も足早に過ぎて風薫る五月、ぶらりと天理市を訪ねてみた。

古代大和には朝廷直轄の六御県（むつのみあがた）があり、それぞれに守護神があったと言う。曾布（添）・山辺・志貴・十市・高市・葛木の六座がそれぞれであり、添と山辺には何故か二座鎮座する。どちらが本物か興味がもたげて現地へ赴く。

### 「山邊御懸坐神社」

（やまのべのみあがたにいますじんじゃ）



近鉄前栽駅に降り南へ直進。万葉歌にある布留川を渡り国道

25号線を横断すると、こんもりとした森が視野に入る。既に街並みは途切れて田園地帯、古代の幹線中っ道（橋街道）に沿って鎮座する。この地を西井戸堂町と言う。

拝殿は真新しい唐破風付き（1995年改築）。本殿は春日・巖島の境内社を従え、こじんまりとした流造り。千鳥破風の屋根に精巧な技巧を感じる。

少し離れて観音堂が建つ。寄せ棟の小堂だが藤原時代（10世紀頃）の十一面観音立像を伝承する。また古記録によれば1007年、藤原道長が極楽浄土を願い吉野の金峯山へ徑巻を埋納した折、この井戸堂に一泊したと言う。由緒ある土地柄が窺える。

### 「山邊御懸座神社」

井戸堂を後にして北東方向に歩く。町中とて舗道が続き足に負担がかかる。天理の中心部に

入ると、天理教の母屋・詰所の高層建築が威容を誇る。行き交う人から挨拶言葉が掛かる。道を尋ねても懇切なもの、流石 奉仕精神の天理教と、ちょっぴり感心。

こちらの社は上ツ道にあり山の辺に近い。社域は崩れ、社頭に立つと石造りの一の鳥居・



二の鳥居と有るものの不規則に並ぶ石灯籠、放置された手水石、社

務所の形すら無くイメージと遠い印象を受ける。本殿の背面を登ると丘陵とため池が広がり、別所大塚古墳など後円墳や円墳を望見する。天理市史によれば、この神域から物部氏の武器や財宝が出土し、本殿を構えたと伝承されている。

天理市には確かに守護神が南北に二座あるが、どちらも神名帳に登載された式内社であり格式が高い。どちらが本来の式内社なのか。歴史家の検証では「大和史料」ではこの別所の社を、「大和名所図会」では井戸町の社を推しており断定は難しい様だ。

時代の流れは社と言えども変転する。地域環境・時の権力者・人々の信奉度など栄枯盛衰が左右される。私の目にも、天理新教の威容を見て、滅び行く別所の神。信者に囲まれた井戸町の神。現代の姿を見る限り後者に軍配を挙げたくなる。古い歴史は何処までも謎である。

帰路、西大寺駅に降り、構内の立呑み処で喉を潤す。

早く帰ろかな～♪♪♪



油彩画 (辻本愛子)「オランダ、運河のある街、アムステルダム」

墨彩画 (羽尻 嵩)「雨日和」 オイルパステル (有元康人)「ならやま第5地区の蕎麦の花」

陶芸 (小島武雄)「オブジェ 赤土、たたら、釉薬 (なまこ吹き付け)」

「吠え猫 赤土、釉薬 (黒蕎麦)」



▲ 雨日和



▲ 第5地区の蕎麦の花



▲ オランダ、運河のある街、アムステルダム



▲ オブジェ



▲ 吠え猫



# ならやまプロジェクト

## 活動予定日

6月	5 (木) 26 (木)	12 (木)	19 (木)
7月	3 (木) 24 (木)	10 (木)	17 (木)
		31 (木)	

◆ 場 所：奈良市奈良阪町・佐紀町の県有林  
[ならやま会館前道路（ならやま大通り）の南側に広がる里山林地]

◆ 集 合：現地ベースキャンプ地・午前9時

◆ 終了予定：午後3時



### 6月5日

<里山 Gr> 伐採済コナラの薪割り・焼却  
カシナガホイホイの設置・薪棚の製作

<エコファーム Gr> 有機野菜&古代米

田植え（佐保台小・会員）

果樹園：筍収穫後の竹林の養生（施肥）

<景観 Gr> BC、彩の道草刈り

駐車場周辺草刈り（第2・3駐車場）

佐保自然の森、田植え・池の整備

### 6月12日

<里山 Gr> 伐採済コナラの薪割り・焼却

薪棚の製作

<エコファーム Gr> 有機野菜

茄子枝誘引、サツマイモ除草、大蒜等

収穫・玉葱収穫、田植え実習予備日

果樹園：梅林 梅の収穫

<景観 Gr> 彩の道草刈り

施肥全般、矮性コスモス種まき

ならやま池生物調査、池の整備

## アクセス

① JR平城山駅下車：東口から南へ徒歩10分

② 近鉄奈良駅：バス13番乗り場

8:27発、高の原行き（平日）

③ 近鉄高の原駅：バス1番乗り場

8:38発JR奈良駅行き（平日）

②③とも「佐保台西口」又は「平城大橋」下車

徒歩7分

◆ 携行品など：弁当、飲み物、軍手（作業用具は現地で用意）



◆ 環境保護のため、お椀、箸、コップなどは各自ご持参下さい。

◆ 連絡先：木村 裕



### 6月19日

<里山 Gr> 伐採済コナラの薪割り・焼却

カシナガホイホイの設置、調査

薪棚の製作・ホダ木の天地返し

<エコファーム Gr> 有機野菜

南瓜の蔓整理、枝豆の播種

果樹園：梅林 梅の収穫

<景観 Gr> ならやま会館前草刈り・彩の道のり面

草刈り・千日紅移植、東園撒収・黄花コスモス種

まき・池の整備

### 6月26日

<里山 Gr> 伐採済コナラの薪割り・焼却

<エコファーム Gr> 有機野菜

春の感謝際、枝豆播種

<景観 Gr> BC付近草刈り・機械整備

草引き、収穫祭

池の整備

※ 全体で、適宜ごみ拾いや溝掃除を行う。





# 行事案内 part 1

## 6月・月例研修会ご案内

### 万葉のふるさと明日香追想

(明日香の万葉歌碑めぐり)

6月9日(月) 9:30 橿原神宮前駅東口集合  
9:41のバスに乗ります。遅れないように願  
いします。前日の19:00の天気予報で降水確  
率60%以上なら中止します。梅雨近くなので雨  
具の用意は忘れなく。



当初は奥明日香に行く予定でしたが、バス便が不便なため、甘樫の丘からの明日香展望を皮きりに飛鳥寺、入鹿首塚、・・・石舞台と回るルートに変えました。案内は万葉学者故犬養孝先生の直弟子水本さんをお願いしてあります。明日香は言うまでもなく日本人の故郷であり万葉の歌が数多く詠まれた場所です。犬養先生が言われたように、万葉集はその歌が詠まれた故地に行き、そこに立って古代の人の想いを偲ばなければ歌の心は本当に理解できません。現在の明日香はずいぶん有名になり全国から観光客が訪れるようになって、古代を偲ぶよすがも失われつつあります。しかし、明日香の山や川は昔のままにあります、皆様の想像の世界で古代にタイムスリップし万葉の昔を偲びましょう。

「百伝ふ 磐余の池に 鳴く鴨を 今日のみ見て  
や雲がくりなむ」 大津皇子 卷三 — 四一六  
「うつそみの 人なる吾や 明日よりは 二上山  
を いろせと吾が見む」

大伴皇女 卷二 — 一六五

「明日香川 瀬瀬の玉藻の うちなびき 禰は  
妹に 寄りにけるかも」 卷十三 — 三二六七

「路の辺の 老師の花の いちしろく 人皆知り  
ぬ 我が恋妻を」 卷十一 — 二四八〇

幹事 杉本 登

仲間入りしました

多方面の活動の魅力と会のモットーに感銘

山本美智子

4月24日、初活動参加の新入生です。「ならやま」の辺りは、サイクリング道路になっていたので幾度か利用していました。当時は、荒れるがままの気味悪い様な雑木林でした。それなのにいつの間にか美しい、優しい里山に様変わりしていてびっくり・・・。

知人から「会」のことを聞き、偉大な、且つ大変な、そして楽しい活動の賜、成果だと知り、またびっくり・・・。その方のお誘いもあり、退職を期に何か新しいことを始めたいとの希望と相俟って、すぐ入会。幅広い多方面の活動の魅力と共に「明るく、元気に、楽しく、そして無理をせず」の会のモットーにも感銘。足手まといになり迷惑かもと躊躇の気持ちもありますが、優しい皆様のご教示のもと、自然の中での数多くの喜び、楽しみ、発見を、私流の「細く、長く」に加えて踏み出しております。期待に胸を膨らませ仲間入りさせて頂きました。よろしくお願い致します。



「奈良・人と自然の会」へのお誘い

栗本 一代

友人の池田富子さんに誘われて、ならやまの里山風景の森に入ったのは、秋の彩りの深い雑木林の落葉の道でした。林道をゆっくりと説明を聞きながら、森林ボランティアの力で、長い歳月を経て再生を目指していること、こんな市民活動の努力で森づくりがなされているお話に、すっかり感動いたしました。自然環境の破壊や劣化が進む中で、こんな風景が身近に広がり、ある種の懐かしさを感じながら記憶の扉が、静かに開く様な気持ちがいたしました。これからの残る人生、微力ながら仲間入りさせていただき、山野草栽培、花木の観察など楽しみながら五感を養い、いのちの洗濯となることでしょう。

桑葚 見上げし空は 遠く遠く

大地割る たけのこの芽の やわらかし

いちはつの 草陰しずめ 除草かな



# 行事案内 part 2

## 春の感謝祭 (じゃがいも祭り)

6月26日(木) 12時~13時予定

ならやまベースキャンプにて、エコファームと女性が中心となり春の感謝祭(じゃがいも祭り)を行います。ならやまで収穫された黒米、ジャガイモ、人参、タマネギを利用したカレーライスを会員皆様に提供します。春の感謝を込めてスタッフ一同頑張りますので、ご期待ください?

皆様の参加をお待ちしています。(雨→7月3日)

\*カレー皿・スプーンをご持参ください。

富井 忠雄



### 7月・月例研修会予告

## 「矢田丘陵緑陰ウォーク」

矢田丘陵のハイキングコースはいろんなルートがありますが、夏の季節ということで、意外に知られていない穴場の緑陰コースを選びました。

丘陵の尾根伝いに森林の中の整備された山道を歩きます。そよ風を受けてフィトンチッドを浴びませんか。きっとりフレッシュした気分になりますよ。詳しい案内は会報7月号でします。

1. 行先：松尾寺を経て矢田丘陵の尾根伝いに歩くコース

1. 日 時：7月22日(火)

2. 集合場所・時間：近鉄平群駅 9時

3. 担当：羽尻 嵩、木村 裕



## 「高野山の歴史散策」の予告

7月は酷暑の下界を避けて、涼しい高野山の宿坊での一泊研修を企画しました。

高野山金剛峰寺の開祖で、真言宗の創始者の弘法大師空海は、偉大な宗教家であるだけでなく、書道・芸術文化に長じ、土木技術など先進技術をもたらした歴史上の巨人です。司馬遼太郎の力作「空海の風景」なども紐解きながら、座学と早朝勤行への参加、山内見学をいたします。

なお、指導と案内は、柴谷宗叔氏(高野山大学密教学博士、大僧都司教、元読売新聞編集部次長)にお願いしております。

1、日時：7月14日(月) 15:30現地集合、15日(火) 現地解散

2、場所：高野山宿坊 無量光院

3、宿泊費：10000円程度の予定

4、収容人数：最大で25名

5、担当世話人：森、川井、古川

歴文事務局 古川宛

収容人数の関係もあり、参加の予約を承りますので、メールまたはFaxにて歴文事務局(古川)宛お申し込みください。

## \*\* 奈良学クイズ \*\*

次の写真の建造物は、どこの建造物ですか。



(1)



(2)

### 平成26年・5月度幹事会報告

- ◆日時：平成26年4月23日(火)  
17:00~20:00
  - ◆場所：奈良市生涯学習センター
  - ◆出席者：幹事18名 顧問2名
  - ◆案件：
    - ①会員動向、会計報告(会員は150名)
    - ②例会、自然教室、ならやま等の活動報告
    - ③GGプロジェクトの推進状況
    - ④第13回通常総会議案書(案)の確定
    - ⑤第13回通常総会決算・予算(案)の確定
    - ⑥第13回通常総会実施要領の確認
    - ⑦ネイチャーなら6月号の編集について
    - ⑧5/3~5天平祭け自然工作出店の確認
    - ⑨5~7月の行事予定の確認、その他
- 以上

### 奈良学クイズ・続

5月号の答え：  
 ① 万葉集 ② 犬養 孝、上野 誠  
 6月号の締切日：6月1日  
 応募要領：メールorFAX



1,377mの山頂に立つと360°のパノラマの世界であった。名神や北陸道からの眺望で馴染み深い「伊吹山」先日、8月の月例研修会下見に同行。快晴視界良好。高山・赤高山植物を確認しつつ、約1時間かけて西登山道を登る。下山は中央登山道を……。多くの植物が生命の営みを。ゴミ一つなく整備が行き届いている。登山者のマナーと守る会の皆様方の努力によるのであろう。

醒ヶ井の梅花藻が、早くも咲きかけていた。中山道の宿場町縁の建物もあり、本番が待ち遠しい。



各種団体の総会が目白押し。幅広い価値観。色々なスケールを持ち、臨機応変にという芸当はなかなか難しい。「是々非々」。イエスマンばかりでは如何なものかと、そのような日々が続く。(里山人)

### ペン画に寄せて

境 寛

#### 南部鉄瓶

いろりや火鉢が見られなくなり、当然鉄瓶も生活の中から消えてしまい、今では美術工芸品としての南部鉄器(なんぶてつき)になってしまった感があります。

南部鉄器と総称されていますが、南部鉄器には、奥州市と盛岡市の二系統があるとのこと。南部鉄器の中でも、私達がよく目にするのはこの南部鉄瓶でしょう。

### 申し合わせ事項

ならやま環境整備活動や野外行事は、前日午後7時前のNHK TV天気予報で降水確率が午前60%以上の場合は中止になります!!

※ 通常活動日【木曜日】が、雨天等により中止になった場合、翌日の【金曜日】を振替活動日とします。  
 種々ご都合もあるかと推察されますが、「ならやまプロジェクト」の推進のためにも よろしくお願ひします。

### 会報誌[ネイチャーなら]・第149号

発行：奈良・人と自然の会  
 会長 藤田秀憲

<http://www.naranature.com>



7月号の印刷・発送予定について  
 日時：平成26年6月30日(月)am9:00~於  
 : 奈良市ボランティアセンター



編集チーム・代表 鈴木末一